

目的

CCU (Carbon Capture and Utilization) /カーボンリサイクルは、CO₂を資源として捉え、鉱物化や人工光合成等により素材や燃料等へ再利用することで、大気中へのCO₂排出抑制が可能となる。また、CO₂の分離・回収設備を設置することで、既存の化石燃料の調達体制や設備を活用しつつCO₂排出削減に貢献できる。

大崎上島NEDOカーボンリサイクル実証研究拠点では、大崎クールジェンプロジェクト（次世代石炭火力の実証試験）で回収したCO₂を利用し、カーボンリサイクルの技術開発・実証を集中的に実施している。

ここでは、カーボンリサイクルに関するNEDO研究開発全体の状況、特に化学品と燃料製造に関する各技術のねらいを理解し、今後に向けての意見出しを行う。

成果のイメージ

カーボンリサイクル（化学品・燃料分野）に係るNEDO成果報告会での技術開発項目を基に、CCU事業化の未来図（時期と規模感のイメージ）を創ります。

関連研究施設見学

大崎クールジェンの見学

休憩

プレゼンテーション

広島大学A-ESG科学技術研究センター 岡村 幸壽氏より、
『NEDO脱炭素技術分野よりCCU（カーボンリサイクル_化学品・燃料関連）の研究
開発動向まとめ』についてプレゼン

グループ作業

作業グループ（2グループを想定）において、プレゼンにて整理した技術項目を未来
図（事業化時期と規模感のイメージ図）に配置する作業を行います。
各グループで作成した未来図の説明を行い、全体で意見出しを行います。